

京ものがたり

さいじゅじ 名取裕子 愛犬が眠る西寿寺



名取裕子 1957年、神奈川県横須賀市出身。映画「序の舞」「吉原炎上」「マークスの山」、テレビドラマ「けものみち」(NHK)や「京都地検の女」「法医学教室の事件ファイル」(ともにテレビ朝日系)などに出演。いまは「ヤメゴク」(TBS系)に大島優子演じる主人公の母親役で出演中。

ドラマの撮影でたびたび京都を訪れる名取裕子のかたわらには、いつも愛らしい道連れがいた。フサフサの毛と澄んだ瞳。メスのミニチュアダックスフントで、名前はプブといった。

37歳の誕生日、ドラマのスタッフからもらった。現場の人気者で、お気に入りのスタッフがいると飼い主そっちのけで駆け寄っていく。撮影が長期間に及ぶときでも一緒にいられるように、太秦にある東映京都撮影所の近くに「ペット可」のマンションを借りた。

みんなが可愛がってくれるので、プブは京都が大好きだった。でも、犬を取り巻く月日の流れは、人よりもずいぶん速い。5年ほど前から目と耳が不自由になり、手厚い世話が必要になった。食べ物を吐き、決められた場所でトイレができない。足取りがおぼつかないのに、後をついて歩こうとする。そんなプブを一緒に、抱きしめて寝た。

別れは2012年6月。撮影で出かけている間に、預けていた動物病院で旅立った。16歳だった。ロケに使うバスに乗り、大勢のスタッフと

火葬場に向かった。「人間のお葬式みたいだった。こんなに多くの人に可愛がってもらった犬はいないので」。独身の名取にとって、まきれもなく家族だった。

プブはいま、京都撮影所に近い西寿寺に眠る。400年の歴史がある浄土宗の寺で、高台の墓地には人だけでなく、犬や猫、ウサギやハムスターも葬られている。

住職の村井定心(58)は「仏教では動物を『畜生』と言いますが、私は抵抗があるんです」と話す。寺には、人とペットが一緒に入ることができる合祀墓もある。ドラマ「京都地検の女」のロケで西寿寺と縁ができた名取は、この地にプブといつまでも寄り添える墓をつくった。

中学生のときに実母を亡くし、死をどこか身近なものに感じてきた。い父も継母もすでに世を去った。い

つ、どんな形で死がやって来るかわからない。どのように死と向き合えるのか、自問自答する日々だ。「すべてを準備して、そのときを迎える人は少ない。結局、いますべきことを精いっぱいやるのが大切だと思う」と語る。

プブには忘れ形見がいる。プブが来て3年後に生まれた女の子、ジジ。友人から譲り受けたココと合わせ、いま2匹の犬と暮らしている。

ジジはプブが逝った年齢と同じ16歳を迎え、介護に手がかるようになってきた。

名取は時折、2匹とプブのもとを訪ねる。墓のそばに植えられたサクラの若木が年々枝を伸ばすのを見上げ、京都の街が一望できる境内で弁当を広げる。いまもプブがそばにいてくれると、はつきり感じられる。

＝敬称略(村井信也)

サクラの下でずいずいそばに



西寿寺から京都市街が一望できる。「エネルギーをもらえる場所」と名取＝京都市右京区、滝沢美穂子撮影



おこしやす

西寿寺(京都市右京区鳴滝泉谷町16、075-462-4851)は、嵐電北野線の宇多野駅や京都市バス、JRバスの福王子バス停が近い。日中は墓地へ自由に出入りでき、水が奏でる水琴窟の音が楽しめる。梅雨時はアシサイが見頃を迎える。世界遺産に登録されている真言宗御室派の總本山、仁和寺も徒歩圏内にある。

東映京都撮影所の東隣には、時代劇の世界が体感できる東映太秦映画村(京都市右京区太秦東峰岡町10、0570-064349)がある。忍者ショーや撮影セットの見学が楽しめる。3月にオープンした3階建ての「立体迷路 忍者の巻」が人気。

ふれぜんと

名取さん行きつけの和菓子屋「紫野源水」(075-451-8857)の和菓子詰め合わせを5人に。はがきに住所・氏名・年齢・電話番号を明記し、〒530-8062 大阪北郵便局私書箱526号「名取裕子」係へ。25日必着。